

リハビリ科骨転移カンファレンスのご案内

がんに対する治療は著しく進歩し、患者の生命予後は改善の一途をたどっています。これに伴い骨転移を生じる患者数も増加傾向にあり、がん罹患患者の10%に出現すると言われております。がんの骨転移は、患者の生命予後に直接影響を与えることは少ないと言われておりますが、骨転移に伴う疼痛、病的骨折、脊椎麻痺等の出現により、患者の performance status や ADL が低下し、原発巣に対する治療継続にも大きく影響し、患者の QOL が著しく低下します。

リハビリテーション科では、院内のがん患者さんの SRE(骨関連事象)予防を目的に、リハビリ治療中の骨転移患者、各診療科、チームからの骨転移の相談症例を対象とした『リハビリ科骨転移カンファレンス』を6月より開始しており、カンファレンス内容を電子カルテおよび掲示板で主科の先生方、病棟へお知らせしています。

骨転移の評価、安静度等に関する相談をお受けします。ご希望の際は、疼痛部位、骨転移部位の X-P、CT、MRI 等の画像検査を実施の上、リハビリオーダー(カンファレンス前に身体所見の評価を行います)をいただけますと幸いです。

